

高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行

NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224

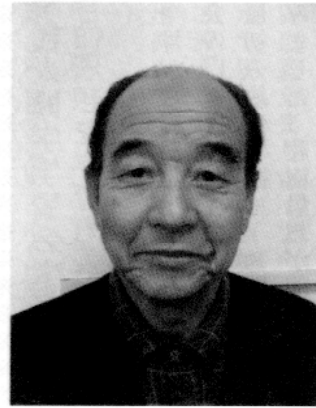
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1

藤樹書院・良知館内

電話・FAX 0740(32)4156

自反慎独

白井 則茂



最近不登校、暴力行為、引きこもり、いじめなど殺伐なことが多くなってきて、カウンセラーが学校に常駐したりするなど、いろいろな対策が採られています。私は根本的には「子育て」に解決策を見出すのがいいのではないかと思っています。特に幼少期の子育てが重要だと……。

いろいろな資料や本を渉猟するに、乳幼児期の親子の関わりが、乳幼児の脳の発育と、大きくなってからの問題行動に深い関係があることを知りました。先にも触れましたが日本ではかつて「3歳児神話」という言葉がよく使われ「子育てにとつて3歳までが重要なので3歳までは家庭で母親の手で育てないと子どものその後の成長に悪影響を及ぼす」というもので、その下敷きになったのは「三つ子の魂百までも」という日本

人の経験則です。そしてそれは脳科学が発達した今日、脳の前頭前野にある眼窩前頭皮質の発達がその後の問題行動と深く関わっていると科学的に証明されています。そしてその脳の発達はその働きによって「臨界期」があるという。眼窩前頭皮質(社会性を育てる)の臨界期は2歳半から3歳で達します。その頃までに母親や周囲の人達に充分に愛されたこと認識できれば子どもはその人達の言うことを聞くようになります。

近年、高い学歴を持った親が多いが、自分本位で行動し、子育てもその延長で乳幼児の動物的本能を無視し得々としている人が多いようです。

藤樹先生の「自反慎独」という教えがあります。折角、高い知識を身につけた学問なのだから余計に自分に反らなければならぬ。いたずらに人を責めたらただその人の短所が見えて、自分の欠点に気がつかない。「慎独」は解りやすく言い換えると昔から言われている「見てござる」、どんな暗闇でも、誰からも見えない、見ていないと思っても神さんはちゃんと見ておいでだよ」ということです。この教えが一番やさしいようで一番難しいかもしれせん。

みんなが理解し実行できれば世のなか平和になるのですが……。

つづきの声

上田藤市郎

最近、私たちの想像を超える事件に驚かされる事が少なくない。例えば、青少年による残酷な事件や良識ある人々と考えられている政治家や警察官、大学教員などによる犯罪などがある。

事件が報じられるとメディアの陳腐な発想は、「どうすれば、このような事件をなくせるか」だ。根本を見直す必要があるという論調は、子供のころからの家庭教育、学校教育、道徳教育、教員研修、社会教育、地域ぐるみの教育、教育改革へと話は広がっていく。しかし、待てよ。徳は、法律で教え込めるものではない。政治が、より良い社会を形成するのに、大きな力を発揮することは確かだ。しかし、その反対に国全体を戦争の惨劇に引きずり込む歴史もあった。

「まっすぐに生きる」という志は、その人の意思決定によるべきもので、本人が納得して初めて行動に移される。これが「致良知」であろう。徳は、お互いの心の共鳴でしか伝えられないものだ。

私達一人ひとりの生き方を周りの人の生き方に伝えることで、社会は確かに変わっていく。時間はかかるけれども最も近道だ。